

訪問リハビリテーションにおける「定期的な看護師の関与」の意義

山口 美知代¹⁾ 中島 愛¹⁾ 石森 卓矢²⁾ 美原 玄³⁾ 美原 盤⁴⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院訪問看護ステーショングラーチア
看護部門

2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院訪問看護ステーショングラーチア
リハビリテーション部門

3) 公益財団法人脳血管研究所 法人本部

4) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経内科

[目的]平成30年度介護報酬改定において、リハビリテーション(リハ)を中心とした訪問看護である場合、3ヶ月に1回程度は当該事業所の看護師が訪問し、利用者の状態の適切な評価を行うことが義務付けられた。当ステーションにおいても、リハを中心とした利用者に対して今まで行っていた初回訪問に加え、3ヶ月に1度看護師による定期訪問を行った。今回、利用者、およびリハスタッフに対しアンケート調査を実施し、看護師による定期訪問の意義について検討したので報告する。

[方法]平成30年4月から平成31年3月の期間、当ステーションで訪問リハを中心として利用し定期的に看護師訪問をおこなった利用者116名を対象に、満足度などに関するアンケート調査を実施した。また、同時期に在籍していたリハスタッフ10名に対し、看護師訪問の効果などについてアンケート調査を行った。

[結果]看護師の定期的訪問に対し、利用者の92%は肯定的であった。肯定的な意見の理由として、体のことや日常生活について相談できたことを評価していた。頻度に関しては、74%が現状の3か月に1度の訪問を希望し、14%が現状より頻回な訪問を希望していた。全てのリハスタッフは、連携が密にできアセスメント能力の向上、適切なリハに繋がると認識していたが、多くのスタッフはスケジュール管理の負担が増え、仕事量が増えたと感じていた(受付番号098-03)。

[考察]リハを中心として利用している利用者に対する看護師の定期的訪問は、利用者にとっては病状や生活に関する相談機会となり、リハスタッフにとっては病状のアセスメント能力の向上に結びついていた。看護師の定期的訪問は、在宅療養の質の向上、推進に対し有意義と思われた。一方、このことが看護師・リハスタッフとも業務負担の増大となっており、訪問看護ステーションにとっては、看護師とリハスタッフ双方

のマンパワーの確保が課題となると思われた。